

「令和6年度第4回阿見町人と自然が織りなす輝くまち創生有識者会議」議事概要

会議等の名称	「令和6年度第4回阿見町人と自然が織りなす輝くまち創生有識者会議」
開催日時	令和6年11月25日(月) 午後2時00分～4時00分
開催場所	阿見町役場 3階 305会議室
議題	(1) 阿見町人口ビジョン(案)【資料1】 (2) 第3期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)【資料2-1】 (3) 第3期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略(概要版)【資料2-2】
出席者	[委員](敬称略) 牧山 正男、齋藤 光子、江田 麻裕子、戸田 さつき、山崎 友美子、 池田 有美、倉本 尚美、塚本 浩行、島田 美栄子 計9名 [町] 井上 町長公室長 政策企画課：糸賀課長、飯野補佐、野口主任、吉田主事
公開・非公開の別	公開 *傍聴者0人
議事結果	1. 開会 開会のあいさつ。あわせて、阿見町審議会等の会議の公開に関する規程により傍聴者を募集したが、申込みが無かった旨を報告。会議に先立ち、配布資料の確認を行う。  2. あいさつ 委員長より、あいさつ。  * 有識者会議要綱第6条に基づき、牧山委員長に議長を依頼。  【当日配布資料(子育て世代へのアンケート調査)について】
委員長	最初に、「第3期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に関する子育て世代へのアンケート調査について報告いただきたい。
委員	～資料に基づき説明～ 二区児童館でアンケートを実施することに、意味はあったのか。開発が進んでいない地域でアンケートを取った方が、比較ができたのではないかと。そういったことは、今後検討されているのか。
事務局	二区児童館を対象としてアンケートを取った理由は、二区児童館には母親クラブがあるため。その団体に対し定期的にアンケートを実施しており、継続した内容で取った、というのが理由。 その他の対象の地区へのアンケートに関しては、子ども家庭課などで保育所の利用に関するアンケートなどを取っていたりはあるが、現時点で総合戦略に関してアンケートを取っていくかは未定。

委員	支援相談についての情報源が、家族・友人が多いという結果になっている。例えば、電話で相談を受けるなどの受け皿については、行政の補助はどのような感じになっているのか。
事務局	<p>現在、中郷保育所内に子育て支援センターがあり、直接訪問の相談とは別に電話での相談も受け付けをしている。</p> <p>また、さわやかセンターでも母子担当の係がいるので、健康面や子育て面で心配なところがあれば、支援センターと連携しながらの支援体制は整っている。</p> <p>来年度は、このアンケート中にもあった「(仮称) 子育て支援総合センター」というところで、まず一時的な相談を受け、よりハイリスクなものについては健康づくり課で受け付ける、という体制を確立していく予定。</p>
委員	子育てではなく、DVなどの電話相談は男女共同参画センターになるのか。
事務局	DVに関しては、男女共同参画センターで問い合わせを受ける形。
委員	<p>2点ほど教えて欲しい。1点は、アンケートの対象者、二区児童館がある場所は、阿見町の中では比較的子育てや施設が充実している場所なのか。場所的に車が無いと行くのが難しいのか。それによって、この回答結果をどこまで一般的に理解していいのか。</p> <p>これらを基準にして、比較的充実しているところであれば少し問題があると思って問題提起していくべき。地区的な特徴を教えてください、ここと比較して他の地域はどうかというところを教えてくださいと検討しやすい。</p>
事務局	二区児童館はうずら野にあり、荒川沖駅が近い。阿見町の西側の地域で、市街化地域の中にある保育所。併設された児童館の中にこのクラブがあり、そこを利用する方は荒川沖周辺の方が多い。学校区児童館も役場近くにあったが、老朽化で閉所してしまい、そこの方も一部利用はされてるかもしれないが、利用者の中心はその市街地の方になっている。
委員	<p>そうすると、おそらく二極化するのかもしれないので、もう一方の意見を入れた形でパブリックコメントを作った方がよい。</p> <p>もう1点は、子育てアプリあみ Link。残念ながら、こちらについては知らなかったが、実際、運用状況はどうなのか。現状として、ダウンロード数とかアクセス数はどうなっているのか。</p>
事務局	運用を開始してから2年目を迎え、1年間で大体400件ぐらいの登録になっている。
委員	400件って、未就学者の何割ぐらいなのか。
事務局	年間の出生数が200人から300人なので、2年で考えると利用は低調な状況。

<p>委員長</p>	<p>アンケート対象の範囲だが、11月7日から14日という短い期間に行われたものなので、あれもこれもというわけにはいかなかったということだと理解した。先々に向けて、こちらは継続的に行った方が良い。いろいろな地域で継続的に行うということも重要。特に、今度子育て支援総合センターができるので、できる前と後でどう変わってくるのかは、学術的な意味でも興味がある。</p> <p>今回の話は、荒川沖駅に近く比較的孩子が多い地域だった。阿見町の中で、比較的孩子が多い地域で、横の連携が取れているクラブの方々である。そのことを踏まえた上で、この子育てアプリの登録者数の低さは大きな事実だ。かなり気をつけて取り扱っていかなければいけない話。子どもが多く、横の連携が取れるのに新生児ではないという理由で、アプリへの登録者がゼロ。これは、とてもまずい状況にある。新生児以外への宣伝もしていかないと、せっかくアプリを作ってるのにとってももったいない。半数程度の方がSNSを利用されている。ネット検索、家族・友人との情報交換が、これだけ質問5の中で多いということを見ると、この中で周知していくなり、積極的にアプリの登録者を増やす方法が考える必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>このアプリは、どういうことをするものなのか。利用者側のメリットは、どういう点にあるのか。ママ同士の情報は、面と向かってでなくても情報の発信や、やりとりにはすごく敏感。これが良いとなると、ガッと入っていく可能性がある。メリットがどこなのか、使う側と、それを管理する側。両方のサイドの視点が必要のため、メリットを知りたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>紙の母子手帳の方は継続して行っている。アプリは、そのサポートを電子化したもの。プッシュ型の通知案内をし、予防接種等の案内を送れるようになっている。相談機能はついておらず、プッシュ型のお知らせがメインというアプリ。</p>
<p>委員</p>	<p>アプリについて、子育てしている時に何が一番大変だったか振り返ると、予防接種を「どこで、何時に、いつまでの期間に打たなければいけない」というのが、大変だった。誕生日を登録すると、この日までにこの予防接種を受けられるとか、そういうことが分かると便利。</p>
<p>委員</p>	<p>私は阿見で子どもを産んだわけではなく、幼稚園生ぐらいの時に阿見に来た。予防接種などの情報は小学校ぐらいまで使えるため、広報あみで対象年齢等を周知してもらおう。新生児から、幼稚園までなのか、小学校6年生まで大丈夫なのか。広報あみは見ている町民が多いので、登録者が増えていくと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>担当課にも情報を促しまして、促進していく。</p>
<p>委員長</p>	<p>アプリのバージョンアップの機会があれば、こういう生の市民の方々の意見を反映させられるような機会を設けて欲しい。</p>

### 3. 議題

#### (1)阿見町人口ビジョン(案)【資料1】

～資料に基づき説明～

委員長

要点として、人口が増えている市町村が全国的に少ない中、阿見町は微増がずっと続いている状態。しかし、そうであっても高齢化は進み、生産年齢人口はどんどん減っていく現状にある。そうになると、税収面の問題や、地域の繋がりの問題などが出てくる。さらに、これだけ病院が近くにある町であっても、地域医療や介護・福祉というようなどころにも問題が出てくる。そういうことを踏まえ、今後の計画を立てていく。それが人口ビジョンの役割で、こういう将来の人口を踏まえた上で、阿見町が目指すべき施策を考えていく必要がある。

地域資源を生かして人を呼び、交流人口を増やす。出産・子育てへの支援、高齢化を見据えての世代間交流の充実などが、今後、具体的に目指していくべき点。

これらの課題は全国共通で、特に、子育て支援・世代間交流・関係人口あたりは、どこの地域でも同じようなことを謳っている。そこに阿見町ならではの特徴を見出していくのであれば、関係人口・交流人口のところに霞ヶ浦、予科練、この地域ならではの自然教育をここに謳い込んでいくことができている。

高齢化の進行が30%というのは、今の日本の平均が大体これぐらいのところにあるため、2020年のデータで28%というのが、高齢化率の日本全国の平均。現在は30%程度で、大体それぐらいのところ阿見町も到達する。それを超えることが見えてくると、ここに健康や世代間交流という言葉が入ってくる。

このことを踏まえ、今後、これらのことを想定した上で、この後の3年間の戦略を立てるとというのが、資料2以降になる。

#### (2) 第3期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)【資料2-1】

#### (3) 第3期阿見町まち・ひと・しごと創生総合戦略(概要版)【資料2-2】

～資料に基づき説明～

委員長

資料2-2では、KGI・KPIから逆算してKGIを組み立てた形となっている。まずは4ページ、基本目標1から順に1・2・3と時間を切って進めていく。

基本目標1「阿見らしい多様な働き方ができるまちと」いうページの下側の①②③のKPI、それから一番上のKGI実質町内総生産に関して意見はあるか。

#### 【基本目標1】

委員

1つは、男性の残業率が下がる働き方ができる支援ができればよいのではないかな。もう1つは、高齢者の雇用創出をして欲しいという点。年々、年金が下がってきているとか、年金支給を先延ばしにして定年後から年金支給開始まで間隔があるということに対し不安を覚える。そのため、若い人たちが働くことも大事だが、リタイア後の人たちが働きやすい場所をつくってあげて欲しい。女性をサポートするのは、女性の立場からはとても嬉しいが、子育ては女性だけが担うものではない。男性が残業しなくても、きちんとした収入がある環境であれば、自然と子どもも増

	<p>えていくのではないか。なので、男性も働きやすい環境をつくっていくということは大切。阿見町に引っ越してきたら、働きやすく家族全員が幸せになれるまちになれば、住みたいと思う人が増えるし、離れたと思う人も減るはず。</p>
委員	<p>全てに言えることで、ここにもある空き家等活動チャレンジショップや農業体験の発信の仕方。先ほどのアプリの話もそうだが、どのように発信して伝えるか。</p>
委員	<p>高齢者や学生とあるが、中途採用の方たちの声も聞きたい。今、若手の人たちも就職して数年で辞めていたり、移動したり、中高年の方も違う職についたりする方がいる。阿見は、そういったことができる、自分のライフスタイルに合った、バランスのいいところだと思う。阿見に雇用もあるということだと、メリットがある。中途の方も多いので、そこに対しての働きかけがあると良い。</p>
委員	<p>最初のページが、「デジタル田園都市国家構想の実現」というタイトルになっている。タイトルを見てから読むと、中身はソフト面の方が多い。目標がデジタルと書いてあるので、デジタルの割合がどの程度なのかをはっきりさせないといけない。もし、このデジタル構想というのが皆さんにお聞きしてしまうと、感覚的にギャップがある内容になっている気がする。情報のデジタル化なんて、すぐにはできなくてもいいと思う。慣れるのも大変だし、デジタルだから何でも解決する問題ではなく、逆に問題が起きることも多々ある。</p> <p>他にも、第3期の目標として、どこまでのデジタルを求めて実現になるのか。その基準がここからは読み取れない。阿見町が目指しているデジタル利用のイメージや使い方が読み取れないので、初めのタイトルと中身にギャップがある。その辺のバランスを検討して欲しい。LINE や SNS、デジタルを利用した窓口サービス。その辺はもちろんだが、どちらかというやはりソフト面の内容の方が多いと感じる。どの辺までかを提示し、提案できる内容にして欲しい。</p>
委員長	<p>デジタルは、基本目標1に関わらず全体に関わること。これを先に片付けておいたほうが良い。資料2-1の5ページ目がデジタル田園都市国家構想で、これを事務局から説明いただくか、私から補足するなりで共通理解としておくべき。</p>
事務局	<p>デジタル化については、国が示している「デジタル田園都市国家構想」は、行政手続きのオンライン化である。あとは、皆さんの生活には直接関わらないが、行政が持っている住民基本台帳のシステムで自治体間がそれぞれ独立して運営してるプラットフォームを一本化し、効率化を生み出す。そうすることによって財源が生まれ、それを地方創生に生かさないという立付けになっている。阿見町としてはそれだけでいいのか、というところではなく、行政手続きをオンライン化することは、それに対してデジタルデバイドを解消させるとか、そういった取り組みも進め、住みやすい町にしていく。</p>
委員	<p>発信者の違いで、担当の方々から見た場合このデジタル田園都市国家構想でいいと思う。しかし、私たち町民から見るとかなりギャップのある単語だと感じる。</p>

事務局	<p>例えば、マイナンバーカードが保険証になるというのも、12月から切り替わるが、マイナンバーカードに今後、図書カードの機能を持たせるとか、独自でできるものがある。プラスアルファの機能を持たせて、利便性を向上させるなどもデジタル田園都市国家構想の取り組み事例で紹介されている。</p>
委員長	<p>補足すると、デジタル田園都市国家構想に関しては、この分野の研究者の間でも視点が定まっていない。国が想定しているデジタルと、市町村行政という一番住民に近い立ち位置の自治体が、住民に近いところでやれるデジタルとは全く違う。国がやろうとしている方向については出ているが、それを市町村が一体どう位置付けて組立をするかということに関しては、すれ違いが確実に生じるだろうということが最初に提案されたときから目に見えている。</p> <p>その中で少し検討したいのは、このサブタイトルに問題があるかなということ。「デジタル田園都市国家構想の実現に向けて」としてしまうと、国へ迎合している。そうではなく、「デジタル田園都市国家構想の時代への対応」とか。それに追随し、市町村としてはこういうことをやろうとしています、というようなことが読めば伝わるようにすべき。「構想の実現に向けて」だと、国の言った通りにやります、ということになってしまう。阿見町としての独自性を出したほうが良い。もしくは、2-1の方に、このようなことを受けて町としては～、というような一文を入れてあげる。それだけでも説明になると思う。つまり、このサブタイトルを町としてこういう方向できっちりとやります、ということを一言宣言してしまう。基本目標設定の前段階でいいかもしれない。</p> <p>高齢者の雇用と中途採用というのは、見方によっては1つにまとめられるもので、分けて語る必要もない。本来なら、これはリスクリングの中に入っていいこと。リスクリングというのは、新しくスキルを身につけよう、ということなので機会の提供だけでなく実践の場の提供が、イコール再雇用の話にも繋がってくる。何かこの表現を改め、あみ未来塾の話だけではなく、ここのKPIをもう少し違うものも加えるという形で対応できるのではないか。</p>
事務局	<p>資料2-1の17ページの上段に、①としてチャレンジできる場の提供ということで、学生だけではなく既に働いている社会人やリタイアした人が学び直しできる機会を提供していきますということで、ここはリスクリングのことを説明している部分となっている。こういった基本的な考え方を持って、施策のKPIや施策展開を設定している。意見をいただいた高齢者も含めた学び直しであるとか、そういったものは取り込んでいるような形となっている。</p>
委員長	<p>そうであれば、特に修正はいらない。そこは、事務局の判断に委ねる。場合によっては、展開をもう少し工夫して欲しい。</p>
委員	<p>基本目標2に「魅力を発信し」というところで、その2のところで「阿見町の暮らしや魅力、ライフスタイルの発信」ということになっている。</p> <p>どちらが上の概念に来るかということ。下のところに来るのが上で、もうちょっと上のところで発信を、やっぱりそこがいいのか。</p>

<p>委員長</p>	<p>基本目標 1・2・3・4 が横並びにあって、その上に何かというやり方もあるし、1・2・3・4 が相互連携しているという捉え方にすれば、どちらが上で、どちらが下というようなことでもない。今は、その相互連携ではないが、4 つが横並び。3 ページの図の書き方で考えると、基本の 1・2・3・4 が縦に並んでいて、そこに「子育て、暮らし、誇り、愛着」というのが縦に貫き、というようなことで考えるとそうだが、これを何か丸い形にして 1・2・3・4 をうまく置くという配置もなかなか難しい。その辺りは、説明の仕方では何とかなる。新たに書き換えることではないようには思うが、3 ページもデジタルの力を活用したとあるので、ここも本当は発信というのはこの中のイメージに入ってくるのだと思うので、表現の仕方でも工夫できる点。</p> <p>もう 1 点が、女性への支援が色々ところで書かれていて、これはとても重要なことではあるが、女性にばかり偏ることは、昨今の SDGs の考え方からするにしても、新しい考え方から乖離する。男性の働き方に関する記述を、「男性の」と書く必要があるかどうかは分からないがどこかにあっても良い。</p>
<p>事務局</p>	<p>36 ページ・37 ページは基本目標 3 になるが、子育てと仕事の両立を支援というところがあり、37 ページの KPI を見ると、2 つ目にワークライフバランスの推進がある。基本目標 1 で出てきたワークライフバランスは、女性が前面に出ていたが、これは男女に限らずワークライフのバランスということを推進していく内容になる。先ほど指摘があった「男性の残業を減らしていく」考え方も、子育て・仕事の両立という中に含まれるのでここから読み取れる。</p>
<p>委員長</p>	<p>1、2、3、4 がそれぞれ相互に関係することをポンチ絵で説明できると一番良い。「男女共同参画」と書かれてしまうと、もともと男性だけが社会に参加してたのに対し、女性が参画するようになることを「男女共同参画」とすることで、歴史的にそう捉える考え方が中心。「男女共同参画」と書いてしまうと女性が加わってくることを意味してしまうので、よりよい言葉があると良い。これは、3 年後の課題かなと思う。3 年後、阿見町発信で男性の積極的な云々というようなことが入ってきてても良い。今回は、歴史的にはそういう経緯がある言葉なので、必ずしもこの場で使うのは適切ではない。</p>
<p>委員長</p>	<p><b>【基本目標 2】</b></p> <p>YouTube があって良いと思う。Instagram にしても、フォロワーが増えることだけではなくて、阿見町というハッシュタグを持ってどれだけつぶやいたかということが重要になってくるので、本当はそういうのが KPI になってくるべきだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、ひらがなで「あみ」にするとかハッシュタグでもメッセージをつけるというのもある。「阿見を元気にしていこう」とか、「阿見が好き」とか。そういう方向性が出るメッセージを使う。その方向性がここで集約されているか、そこが見えるので、ハッシュタグにちょっと足すと触りやすい。</p>
<p>委員長</p>	<p>ゆるキャラを使い、ちょっとした上手なキャッチフレーズつけても良いと思う。若</p>

	<p>い方々とか経験豊富な方々をなるべく多く集め、SNS の使い方に関してどんどん発掘していく。</p>
委員	<p>Instagram で阿見町をフォローしているが、1 点気になることがある。阿見の観光を検索すると、阿見がトップに来ない。</p>
委員	<p>ハッシュタグでの検索は難しい。Instagram とか SNS というのはどうしても検索条件が変わってくる。ハッシュタグで検索できてきたものは、Instagram では検索がしにくい状況になってきているので、運用はその都度、新しい情報を持った人がいてアンテナが立ってる方が運用していくべき。</p> <p>フォロワー数を KPI にしたのかというのは少し疑問。アナリティクスとか、そういったところにしたほうが良いと思う。例えば SNS からホームページへどれだけリンクが飛んだとか。ホームページ、SNS によってどんな経済効果が生まれたのかというところを KPI にしても良い。フォロワー数はどうしても不透明なところがある。買おうと思えば買ってしまうので、お付き合いでフォローしてる方もたくさんいるので、KPI としては適切なのか疑問に思う。閲覧数が何万回なのかなど、最近の SNS の X だと閲覧数が表示されるようになった。</p>
委員長	<p>ここに関しては、正直手に余ることかと思う。なので、KPI に関して別途議論いただく場を設定して欲しい。詳しい方は、知恵と情報を事務局に授けていただきたい。適切な KPI にできるよう、フォロワー数が適切ではなさそうだとすることは把握した。</p>
委員	<p>補足ですが、X ではハッシュタグは有効。</p>
委員長	<p>YouTube も、登録者数よりも再生回数だったりする。それぐらいならば分かるが、芸能人が登録してくれと働きかけるなんて YouTube の画像をよく見るが、そう考えるとあれは有効な手段じゃない。そこは、詳しい人が誰か入らない限りは先に進まないと思う。</p>
委員長	<p><b>【基本目標 3】</b></p> <p>ページの中に、未就学児に関する記載がなくていいのかな、という気はした。児童生徒というのが目立つと、児童生徒は小学生・中学生のことで、小学校に入る前の子たちの話がこのページから見えてくる必要があると思う。</p>
委員	<p>3 番目の 1 つ目で「時代に合った確かな学力を育成する教育の推進の KPI が学校の満足度」となっている。学力育成が満足度に直結するか、というとそれは違うと思う。例えば、子どもが学校に行って楽しいとか、どういう満足度なのか。学力が高くなるのが満足なのか。遊ぶ環境、体を動かす楽しい環境だから満足なのか、或いは自分が持っている知識とか、自分がやりたいことを伸ばしてくれるから満足なのかというのが、あると思う。学力育成したから学校が満足になるというところに違和感を覚える。例えば、小学校の低学年で学力育成したので、満足だということ</p>

	<p>とを目指しているのか、あるいは、もっと楽しい学びの環境があるから満足だっというのを、町として目指されているのかによって、ここは違う指標があるのでは、と思う。</p>
委員長	<p>38 ページの技術に沿ってない。これは確認が必要。</p>
委員	<p>デジタル技術や ICT が使えるようになり、最新技術が身につく教育を提供することによって、という意味でかかっているのか。そうすると、満足度とはまた違う指標の方が分かりやすいと思う。例えば、プログラミングができる子どもの人数。ゲームが作れるとか、ロボットコンテストに出るか分からないが、何か個々の指標に合わせた後、プレゼンテーションでフォーラムに参加する学生の数が増加するか、英語で話す機会が増えたとか、そっちの方が満足度というよりは、合っていると思う。</p>
委員長	<p>38 ページの記述と、資料 2-2 の記述等に少し乖離があるので、適切なものに修正いただきたい。教育の機会をどれほど設けてるかということも KPI になってくる可能性もある。</p> <p>先ほど、大学の参画という話が何度かあった。以前は、給食の時間の前に農学部の教員などが行って、給食にレンコンが出るときにレンコンはこういうふうには作られる、なんて話をやっていた時代がある。そういう機会を増やすことも、KPI になりうる話。農学部の教員が出向くことは、阿見町でなければできないこと。</p> <p>当然、医療大の先生方が医療に関する出前事業をしていただく場があって良いと思う。これが、子育て環境の中に入れるべきなのか。それとも、阿見町の魅力の中に入れるべきなのかは、判断しかねるが、いずれも満足度という単純すぎる指標では語れない部分だと思う。</p>
委員	<p>阿見町には大学があり、他の自治体は高校も大学もないところもあるので、それが文言として入っていると通わせたいと思う。</p>
委員長	<p>甲子園に出場する高校があり、大学がいくつかある自治体は他にない。そのキーワードをここに入れたら刺さると思う。霞ヶ浦高校は私立高校なので、具体的に入れるのは難しいかもしれないが、県立大学と国立大学があるので使用してもらいたい。</p>
委員	<p>③の一番下の図書館等の充実と活用のところで、児童書の貸し出し冊数だけではないはず。阿見町の図書館は、読み聞かせなどのいろいろな企画をしている。</p> <p>映画を見たりなどはとても素敵だと思う。そこまでやっている図書館はないかと思うが、貸出数だけで KPI と言って良いのか。</p>
委員	<p>小学生は、年間 50 冊の貸し出しを超えると表彰してもらえる。実際、本当に読んだのかなと思うところはある。表彰されたいがため、習慣のように借りてるのではないかと思ったりもする。</p>

委員	土浦市では、本の通帳みたいなものを行っていると聞いた。
事務局	阿見町も子供読書通帳というのを行っている。
委員	あれは、公民館でしか使えないのではないかと。学校で借りた分も貯められると思う。
委員長	資料 2-1 の 39 ページには、読み聞かせや多くの子どもが読書に親しめる機会ということがはっきり書かれているが、これを借りる冊数だけで議論してしまうのはもったいない。いろいろなイベントを開いているのであれば、イベントの回数というのが単純に KPI になるし、イベントの参加者数の平均で議論するというやり方もある。しかし、どうしても子どもの数は減るので、人数の増加という KPI はなかなか設けづらい。けれども、だからこそイベントの質の向上などに振れば KPI になり得るのかなと思う。
委員	私は、障害のある子どもたちの支援をやっていたりするが、本を読めない子どもは少なからずいる。文字が読めないけど、読み聞かせが好きだとか、言葉にしてもらって、というのはよくある。大きい図書館だったら、代わりに呼んでもらったのをレコーディングして、それを貸し出ししてくれるというサービスがある。隣で呼んでくれるというサービスもあるが、多分、お子さんだけではなく、眼が不自由になられた方とかでも、最近はオーディオブックとかもあります。そういう広がりとして、住みやすいという意味ではちょっとユニバーサルな形で本を広めたり、読み物を広げたりっていう方向が 1 つあれば嬉しい。
委員長	阿見町には、大学が 2 つあります。国立大学と県立大学。こういうところが教育に力を入れてる市になりますから、そういう市だと言うことは言えるようであって、しかるべき。大きな目標を掲げ、その中の 1 つの延長に図書館が入ってくるようなお膳立てができてくるといいと思う。 これは総合戦略の議論ではなく、総合計画の議論になってくと思うが、「教育」と茨城県でいうと、どうしてもつくば市に持っていかれてしまう。世間的なイメージに負けてられないが、つくば市は大きい面積中に大学が 1 つですが、こちらはそれほど大きくない面積の中に、県立と国立の 2 つある。そういうことは、どんどんと出していいと、後々に向けて考えている。ただ、総合戦略には入りづらいかな、というふうに思う。
委員	大学の話からもそうだが、私は 40 年ぐらい前かに阿見町に来たとき、この町は住みやすいと学校の先生に言ったとき、「そうですか」みたいな感じだった。 あの時はそんなには言われなかったが、大学がありあれがありこれがあると、本当に住みやすい。周りの環境が、ゴルフ場なんて何個もある。 そんな環境のいいところなんで、住みやすい町になっているんだと、資料を読んで見てこの数字なんだと思いつつながら、私が 40 年ぐらい前に思った、子育てするのにもしやすいところだと思った。今、何十年も経ち、孫も大学にいたり、働い

	<p>たり、受験するようになって、そうやって認められてきて、これが市に向かっているんだ、というのを感じている。</p>
委員長	<p>多くの町民が、これから市民になる。けれど、それが阿見町に対して誇りを持ち、愛着を持ち、特に先ほどのお話だと、小学校の先生が「そうですか」と言うようでは、駄目。時代も違うことだが、「そうなんですよ」と、力を込めていえるようであれば、駄目。</p> <p>それは、小学校の先生方にも、皆さまにも当然お願いしたこと。地域を好きになっていただくことは、当然そうであってしかるべき。我々が、この場にいる委員の方とか、役場の職員の方とか。そうでなければいけない。</p>
委員	<p>図書館の話で気になったが、図書館は大人も使ってる方が多いので、通帳は大人にも支給されるとよいと思う。それによって、リスキリングの機会の提供に入ってくるのではないかな。</p> <p>阿見の図書館に行って、こんなに綺麗で充実してるんだと感動したし、通帳があれば私も頑張ってると思う。ぜひ、阿見町の大人がリスキリングでしやすい環境にして欲しい。</p>
委員	<p>今の意見を聞いて、私は発達障害だったり、その他の事情であったり、いろいろと問題を抱えた方と向き合う仕事をしている。先ほどの読書手帳を持ってるとお子さんが仮にいたとした場合、親御さんとも家庭内みんなでき、一緒に行き楽しめる共通項が出来るので、楽しみが1つでも増えると思う。それを町が推進するというのはとても良い。</p>
事務局	<p>来年度から、デザインは同じものになってしまうかもしれないが、一般の方にも読書通帳を配布する方向で検討を進めている。</p>
委員長	<p><b>【基本目標 4】</b></p> <p>資料 2-2 の 7 ページ。町内どこでも暮らしやすく、住み続けられるまち。地味な一言ですけど、この「どこでも」という 4 文字が重たい言葉だと捉えている。その事も踏まえた上で、このような KPI・KGI にしている。</p>
委員	<p>前々回あたりだとは思いますが、水道が通っていない話をした。まだ、うちの方には来ていないが、確認したところ 2~3 年ぐらい後になりそうだという話を小耳にした。4 年以上もかかるのかと、少し腹立たしく思う。若い世代向けに荒川本郷ばかりインフラが充実されている。君島の方などの前から住んでる住民たちが暮らしづらくて、新しく入ってきた人ばかりをひいきにしているのではないかな。いつまでもこういう感じだと、自分たちもここに住みづらくなるので、出て行きたくなる。そんな、話をしたことがあるが、もっと荒川本郷地区の方ばかりではなく、毎回言ってるんですけども、町全体に目を配って欲しいと思う。</p>
委員長	<p>同様の意見は、多くの方々から寄せられている。この委員会の特性上、例えば、</p>

オンデマンドバスの運行については、毎回議論される話になっている。そこで、どうしても「どこでも」という、4文字が重要になってくるころではある。

一方で、少なくともこのページの中に地区別の話はないが、資料 2-1 を見ると地区別の話が少し書かれている。40 ページにはいきなり、人口が減少しつつあるところがこちらの方ですと。荒川沖駅に近い側から、この辺の地域も含めてですけど、その辺は人口増えてます、なんて地図が示されている。地域性の話は、具体的な名称は書かれてない。44 ページ以降、これは書かなくて良いことなのか、それとも人口が減少してるところにも目を配るぐらいの一言はきっちり添えるべきだと思う。

委員

仕事で毎月相談会を開催している。相談に来る人の多くが相続の相談農地をどうしたらいいか、土地をどうしたらいいか。中には、今住んでる場所の住みやすさ。要は道路とか、そのアクセスの仕方とか、そういう相談も入ったりするが、そういう方の声は大きい。相続とか、自分ごとの家庭内の話については、こっそり相談して自分の中で解決し、近所の人にも言わない。しかし、水道とか道路の使いやすさの工事というのは、声が高いのは 1 人だけで、その話を可決するのではなくいろいろな人に言うことにも繋がってしまうので、少し配慮があった方がいいと思う。人口が多いからこちらばかりで、人口が少ないから無視してますよ、とかではなくて、配慮はしてるんですというのを少し市制で見せておいた方が、よいかと思う。

事務局

いろいろご指摘があった通り、町内どこでもいうのは、今住んでいる、住み慣れたところで住み続けられるまちづくり。これが、第 7 次総合計画の大きなテーマになっているので、その辺りの表現が弱いように、今見ていて感じた。ここに、この総合戦略にはその辺の取り残されるような地域を作らない、ということを理念的な話になるんですが盛り込むことによって、今お話があった水道であれば、水道課が計画を作るときに、きちんと総合戦略にそういうことが書かれているので、その整備はそういう視点を持って進めていくっていうことができる。

また、公共施設を配置する上で、決して荒川本郷にだけ全部集約化する、コンパクトシティみたいな話が出てしまうが、そうではなく、バランスのよい配置にしていく。そういった視点を持ち、個別の計画を作っていくことにも繋がるので、文言の方はその辺を入れるような形で修正していく。

委員長

今どきの言葉で言うと、コストパフォーマンスが悪いと捉えられてしまう。人口が集中してるところにどんどんお金をかけた方が、コストパフォーマンスがいいに決まってる。ただ、それではいけない。「どこでも」と書いている以上は、新たにできた町じゃなくて、歴史のある 1 つの町としてずっとやってきたところで、人口が減ってるところに対しても、目を配ることが必要。市民になったから、そこはほっとくなんてわけには絶対にかないし、ましてやここ阿見町は合併もせずにやってきた。合併してやっていると、どうしても過疎のところは後回しになっていく傾向がある。平成の大合併を行ったところが全部そうになっているわけではないが、多くの地域がそうになっている。合併せずにここまで来て、そのまま単独で市になっていく。それだけのパワーを持った市だからこそ、人口が少ないところにも目

	<p>を配り、皆さんが暮らしやすくなっていくようなことを、総合戦略に一言書くだけで、町としては動きやすくなると思う。</p> <p>今日の議題に関しまして、一旦ここで終わりとさせていただきます。</p> <p>4. その他</p> <p style="text-align: center;">～今後のスケジュールについて、資料に基づき説明～</p> <p>委員長      パブコメが始まったら、お知り合いの方々にもお声がけいただいて是非とも多くの方々からのご意見をいただきたい。本日もどうもありがとうございました。</p> <p>5. 閉会</p> <p>事務局      長時間に渡り、熱心なご審議のほど、どうもありがとうございます。次回の有識者会議におきましては、2月6日の午前10時からを予定しております。追って通知の方でご連絡させていただければと思います。</p> <p>                 以上をもちまして本日の第4回の有識者会議を閉会とさせていただきます。本日はご出席いただきまして、ありがとうございました。</p>
--	---

阿見町